

図書館員のひみつの本棚 第231回

今月は夏にぜひ読んでほしい、ファンタジー小説をご紹介します。

『霧のむこうのふしぎな町』 柏葉幸子／作 杉田比呂美／絵 講談社 2006年 1300円(税別)

<お勧め年齢>

乳幼児☆☆☆ 小低学年★☆☆ 小中学年★★★ 小高学年★★★ 中学生★☆☆
高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

夏休みに父親の勧めで、森の奥で迷いながらも「霧の谷」へたどり着いた小学6年生のリナ。カラフルな家が6軒並ぶ小さな町は、住人たちに「めちゃくちゃ通り」と呼ばれている不思議な場所でした。ピコットさんの屋敷に下宿させてもらうため、町の本屋やおもちゃ屋で働きはじめたリナは、個性的な住人たちと交流していくうちに、居心地の良さを感じはじめます。気弱な主人公リナのひと夏の冒険と成長が描かれたファンタジーです。

<子どもに手渡す時のポイント>

「ファンタジーの名作」と言われ、「夏休みに、ごくごく普通の小学生が、日本のどこかの森の奥にある不思議な町に迷いこむ」という内容のこの作品には、「同じことが自分にも起こるかもしれない」と読者を物語の世界に引き込む魅力があります。

読みやすい文章ですが、最初に方言の会話が続く場面があるので、低学年の子どもに勧める場合には、「最初の部分が少し難しいかもしれないけれど、その後は読みやすくなるよ」等と声かけをして、手渡してほしいです。



通りの名称が出版当時（1975年）の表現から修正され、イラストも変わったこちらの新装版が2006年に出版されました。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手にとってみて下さい。